

■ 2024年度 入試問題分析シート ■

慶應義塾大学

経済学部

科目	数学
----	----

総括

試験時間	80分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

全体的に、昨年度と同程度の難易度であり、基本的な考えを用いて解き進めることができる問題が多い。「二次方程式」「確率」「三角関数」「指数対数関数」「微分積分」「数列」「ベクトル」とIA、II Bからまんべんなく出題されている。

〈特記事項・トピックス〉

第4問は計算量が多く、そこで時間を費やしてしまった受験生が多かったかもしれない。第5問は(2)を超えると、それ以降の答えは容易に求められるが、必要十分条件であることを示せたかどうかポイントとなったかもしれない。

〈合格への学習対策〉

来年度から新課程になるが、数学Bの「数列」、数学Cの「ベクトル」がこれまでと同様に試験範囲となる。基本的な考え方をもとに解き進めることができる問題が多いが、その「基本的な考え方」がしっかりと身につけているかどうか大切である。また、本年度の第4問の計算の分量が多い問題や、第3問の文字が複数出てきて混乱しやすい問題もあり、普段から手を動かして計算をしっかりとこなすことも重要である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	マーク式	A・II	整数・二次方程式	二次方程式の解と係数の関係から、不定方程式を導き、その解となる整数を求めていく。	標準
[1](2)	マーク式	II	三角関数	三角関数の倍角の公式、三角関数の合成を用い、与えられた関数の最大値・最小値を求める。	標準
[2]	マーク式	A	確率	サイコロを投げて、その目に応じてカードを引く人が決まり、カードの数で点数が決まる確率の問題。	標準
[3]	マーク式	II・B	指数対数・数列	指数関数と漸化式を絡めた問題で、関数についての関係式と漸化式の対応を用いる。	標準
[4]	記述式	B	空間ベクトル	空間における原点を一つの頂点とした正四面体と、その頂点のある点に関して対称移動した点を考える問題。計算に手間取った受験生が多かったかもしれない。	標準
[5]	記述式	II	指数対数	与えられた対数関数の整数部分と小数部分についての問題。 $2\alpha + \beta$ が整数となることに気付くことがポイント。	標準
[6]	記述式	II	微分積分	極値をとる x の値などから三次関数を決定し、その関数の絶対値の最大値を求める。その最大値をさらに積分するが、オーソドックスな問題ではある。	やや易

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。